

学校図書館の活動や読書推進活動について

岐阜県立岐阜盲学校 図書室

本校では、意欲的に学習できる図書館を目指して、公共図書館の力を借りながら幅広い学習の要望に応えたり、児童生徒の見え方に合わせて、点訳や拡大、録音資料を作成したりしている。また、読書に対する関心を高め、楽しく読むことができるように、以下のような取り組みを行っている。

(1) メディアの充実

個に応じたメディアを提供するために「サピエ図書館」（視覚障害者用図書情報ネットワーク）で検索し、点訳本や音訳本を借り受けている。品川図書館から借りる「さわる絵本」は教育相談や児童用として広く利用している。また、岐阜県図書館からCDなどの視聴覚教材を借り受け、児童生徒の興味関心に応じたり、教師の指導用として活用したりしている。

(2) 図書館活動の充実

行事としては、4月のオリエンテーション、6月の読書月間、10月の文化祭活動、朝読書、読書感想文コンクールの参加等がある。特に文化祭の「図書ラッキークイズ」は、今年度で27回を数えるメインのイベントで、委員会で時間をかけて準備をしている。参加者がクイズを解きながら図書館や盲学校、点字について理解し、さらに点字・活字使用者が互いにコミュニケーションが取れるように工夫している。例年、文化祭当日は、委員がイベントを盛り上げている。また、今年度は学期に1回、委員によるミニイベントを行っている。1学期は、委員によるお話し会を行った。2学期は外部からのゲストを呼んで朗読会を計画している。その他、岐阜高校から本の紹介カード（POP）、真正中学校から点字本を寄贈して頂いている。

館内には畳のスペースや読書室がある。また、各種コーナー（録音図書、さわる絵本、おすすめの本、視覚障害にかかわる本）を設け、利用しやすくしている。



<図書委員によるお話し会>

(3) ボランティア体制の確立

8年ほど前から、受験用問題集や英語の点訳本、重複障がいをもつ児童生徒のための音訳図書等を製作して頂いている。また、3年ほど前から「さわる絵本」の製作が始まり、年間約10冊が新着図書として加わっている。

(4) 家庭（保護者）や地域との連携

児童生徒の保護者や教育相談「アイアイ教室」への貸し出し、地域の児童生徒からの依頼（夏休みの課題研究や総合学習等）に応えている。